

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

1年生は道徳の授業で「正直な心をもつとどんないいことがあるか」を考えました。

ねずみのチツチは、赤い車を拾いました。しかし、友だちのトビーに赤い車を知らないかと聞かれて、つい知らないとうそをついてしまいます。思わずうそをついてしまったチツチは心がチクチクすることを理由にトビーと遊べなくなってしまうです。

すると、友だちのトビーは、チツチのとげを抜きにとげ抜きを持ってきてくれます。そのトビーの優しさにチツチは正直に話し、赤い車を返します。

正直に話したことで、チツチは、もう心がチクチクしなくなり、仲良く二人で遊べるようになりました。

正直・誠実



主人公が思わずうそをついてしまったときの気持ちを考え、うそをついたり、ごまかしたりしないで正直に話すことの大切さについて考えました。自分のこととして考えられる子も多かったです。

- チツチはうそをついてしまったとき、うそをつかなきゃよかったと考えてると思います。うそをつくとき、心がチクチクするか、これからはうそをつかないようにしたいです。
- うそをつくことが多くなると、友だちから信じてもらえなくなるから、もううそはつかないようにしたいです。
- 正直な心で話すと、心がすっきりするし、友だちともっと仲良くなれると思いました。
- 正直な心をもつと、気持ちがいいし、いつも気持ちがいいようにしたいと思いました。

この教材文を通して、子どもたちは、「本当のことを正直に話す心がすっきりして気持ちがいい」ということに気が付いていました。

正直・誠実については、この教材文だけでなく、これからも、いくつかの教材文を用いて、色々な方向からその良さや大切さを考えていく予定です。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

2年生は、親切・思いやりに関する道徳の授業で、親切の良さについてさらに深く考えました。

学きゆうえんのさつまいも

かぜをひいて学校を休んでいたみち子さんにクラスメイトのよし子さんが、紙袋と手紙を届けてくれました。その紙袋には大きなさつまいもが入っており、「おだいじに。早くなおってね。」とのメッセージが。さらに手紙には、「いままでベンキようしたことは、わたしのノートにかいてあります。なおったら、うつさせてあげます。しんぱいしないでね。」と書かれていました。

このさつまいもとお手紙を見て、お母さんは、「よし子さんは、よく気がつくやさしい人ね。」と言いました。

このお話を通して、親切をするときに、どんなことに気をつければ良いか、みんなで考えました。

親切・思いやり

● 親切にするときどんなことに気をつけると良いかというと、人の気持ちを考えて、相手の表情や状況を考えると良いと思います。

● 親切にするときどんなことを考えると良いかというと、相手が嬉しいと思うかどうかを考えて行動すると思います。

● 今日のお勉強で思ったことは、心を込めなかったりその人のためになっていなかったりするならそれは親切ではないということです。

● 最初はお手紙をあげれば親切だと思っていたけど、心を込めたり、その人のためにやったりすることが親切だと分かりました。

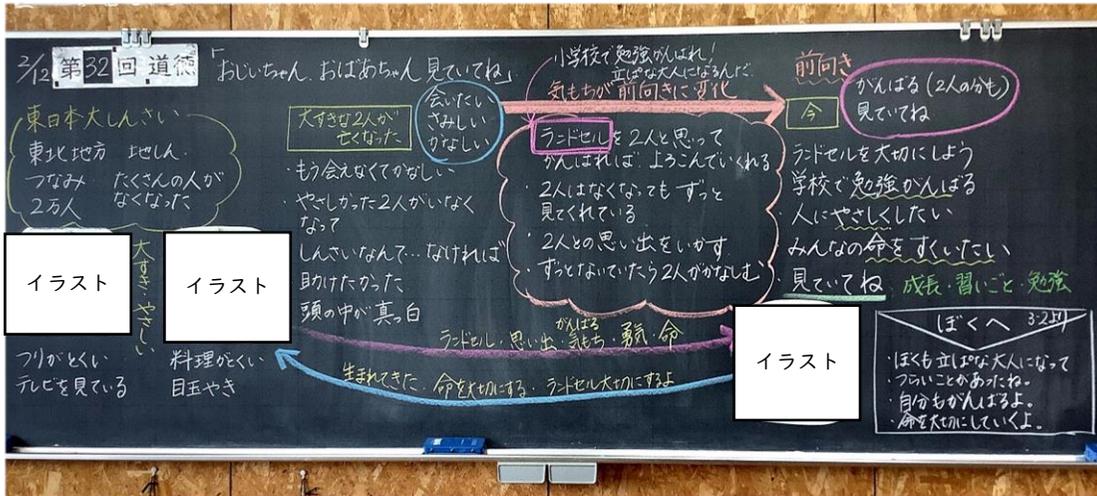
● 今日の学習で分かったことは、親切は相手のことを考えてするということが分かりました。これからは相手がどう思っているかを考えて親切をしようと思いました。

前回までの親切・思いやりの学習で、親切にはいろいろな良さがあるということに子どもたちは気がつきましたが、今回の学習では「親切にするときには、相手のことを考えて親切をした方が良い」ということに気がつきました。相手が今どうして欲しいのかを考え、相手を慮るということの大切さに気がつくことができました。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

3年生は道徳の授業で「生命の尊さ」について考えました。



【各学級の子どものふりかえりです】

○私も、おじいちゃんが死んでしまったときのことを思い出しました。私は何日も元気がなくて泣いてばかりいたけど、この話のぼくのように、前向きに生きることが大切なんだなと思いました。

○ぼくは、東日本大震災というものを知らなかったのですが、とても怖いことがあったのだと知りました。この学習で、命はとても大切なので、自分の命も家族や友達のものも大切にしていきたいと改めて思いました。

○この話の「ぼく」は、この話の後もきっと、学校で勉強などいっしょうけんめい頑張ると思います。そして、りっぱな大人になると思えました。それを天国の二人が見守っていると思います。わたしも、「ぼく」に負けずに、学校の勉強や習い事をがんばりたいです。

この学習では、東日本大震災で祖父母を亡くした「ぼく」が、つらくて悲しい気持ちでいたが、どうして前向きに生きていこうと思えるようになったのかを考えました。

子ども達は、「ぼく」が祖父母からプレゼントされた「ランドセル」を見たことをきっかけに、「ぼく」が二人の気持ちに込めて、頑張る前向きに生きることを決めたと思う」と、考えていました。また、「二人の喜ぶことは「ぼく」が一生懸命頑張ること」とだということにも気づき、自分も命を大切にしながら一生懸命生きていきたいと考えました。

3年生は4週間に渡り、担任以外の全ての先生と道徳の学習をする機会をもちました。普段教わっている学級担任以外にも一緒に学習することで、教える相手が誰であっても一生懸命考えたり、学んだりすることができました。また、私達担任も他の学級の子ども達と新鮮な気持ちで授業をすることができ、同じ内容の道徳授業でも学級によって子ども達の反応や感じる内容の違いがあることに気付けたことが大きな学びとなりました。



道徳便り No.4

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

4年生は道徳の時間で、礼儀の意味や大切さを知り、誰に対しても礼儀正しく真心を持って接すると、どんな良いことがあるかについて考えました。



- 礼儀ができる人は相手の気持ちを考えられる人なのだと思います。当たり前のことが当たり前に行えるのがいいと思います。
- 僕は、礼儀正しくしていきたいと思っています。相手に嬉しいと思ってもらえることで自分も嬉しいと感じられるから積極的にやってみようと思います。
- 今のうちから礼儀正しくする癖をつけていけば、将来、大人になっても当たり前のようにできるのだと思います。
- 礼儀正しくするのは、人間関係を良くするための方法の一つなので、人前では礼儀正しくしたいと思います。
- 礼儀は大切だと思います。「ありがとう」は言わないと相手に気持ちが伝わらないので、ぼくも「ありがとう」を言うようにしたいと思います。
- 礼儀について学び、「有り難う」の意味を知ることができました。
- 礼儀を当たり前のようにできるようにしたいと思います。礼儀正しくなれば、相手も嬉しくなるし、自分も嬉しくなります。大人になってもとても役に立つと思うので、今のうちにマスターしたいし、クラスみんなできれば、もっと良いクラスになると思います。



主人公のひろしは、お小遣いをくれたおばあちゃんや、帽子を拾ってくれた人に、照れくさくて「ありがとう」を言うことができませんでした。ある時ひろしは、手紙を書いていたおばあちゃんの「有り難う」の文字を見つけ、その意味を教えてもらったことで、今までの自分についてしばらく考え、感謝を伝えるために出かけていきました。

授業では、主人公の気持ちの変化について考えた後、なぜ礼儀正しくするのか、礼儀正しいとどんな良いことがあるのかについて話し合いました。また、具体的にどんなことができるか良いのか考えました。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

自分らしさを大切に

人権週間の取組として、学年道徳を行いました。「自分の得意なこと、少し不得意なこと」に目を向けました。なかふじ学級の土谷先生が、人の頭の中にある「ことば、運動、こころ」の3つの部屋にはそれぞれ窓があり、その窓が開きやすい人と、開きにくい人がいるというお話をしてくださいました。だとしたら、「どうしたら自分に自信をもって、それらの窓を開いていけるのか」そして、「この3つ以外に存在する「自分にしかない特別な窓」とは、どのような窓なのか」また、「窓が開きにくい人のために、自分ができることは何かないのだろうか」そんな問いの答えを見つけて欲しいと願いました。

人のために何かができただけで、そんな自分こそ、「自分っていいな」と認めることができます。それが自己肯定感に繋がります。自己肯定感こそ、人の心を**幸せ**に導く力になるのだと思います。人によって「開きやすい窓」「開きにくい窓」は違います。その違いを「認め合う」ことを大切にして欲しいと思います。

ある子が、「僕の開きにくい窓は、心の窓なのだよね」と語ってくれました。自分を見つめて「考える」貴重な時間をもてたと思います。どの子も自分を見つめ、自分と対話し、自分自身をより**幸せ**な方向に変えていこうとしっかり考えていました。

あるクラスでは、「自分らしさって、どうしたら見つかるだろう」という問いに、「失敗を恐れず、何にでも、見つけ次第挑戦してみる」などの意見が出ました。そして、「互いのいい窓を見つけ合う」という意見が出ました。「自分を見つめる、外見ではなく中身を見つめる、意外なところこそ自分らしさであるのかも、だとしたら見つけ合おう」と、どんどん考えは深まっていきました。「先生たちがついていてくれるから、安心して見つければいい」「だから、やっぱりみんなで見つけ合えばいい」「そうだね」と納得し合いました。「見つけ合う」という、互いが繋がって高め合っていこうとする考えがもてたことを、嬉しく思いました。また、あるクラスでは、「自分の開きやすい窓が分からなかったけれど、友だちに教えてもらいました」と心温まる振り返りが綴られていました。友だちのよいところやがんばっているところを見ていてくれるのだと嬉しく思いました。

これから、子どもたちは様々な経験をしていきます。その経験や人との関わり合いを通して、「3つの窓」を開き、「自分にしかない特別な窓」を見つけ、成長していってくれることを楽しみにしています。



3つの部屋・・・使うときに働く

ことば

運動

こころ



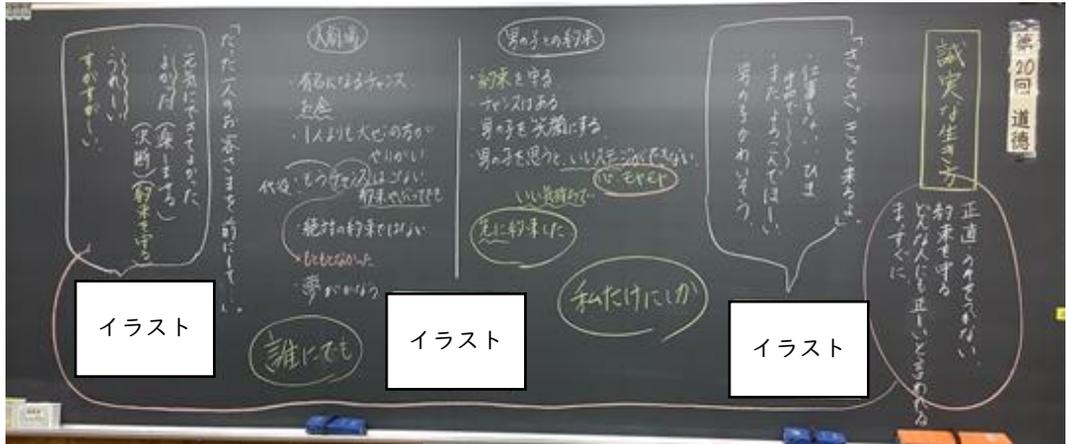
自分にしかない
特別な窓

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

どのような状況であっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしよう。

「手品師」



- 友だちの考えを聞いて、約束を破って大劇場に立つても、男の子に対して申し訳ない気持ちになると気付きました。また、友だちに約束を破られて悲しくなったことを思いだしたので、約束は守るべきだと思います。(K)
- 誠実に生きるとは、嘘をつかず、相手に信頼されることだと思います。これからはそれを意識して生活をしたいです。(S)
- 自分なら大劇場に行ってしまったと思います。でも、みんなの考えを聞いて、手品をしていてもモヤモヤして手品どころではないと気付きました。今は、男の子を喜ばせたいと思います。(H)
- 友だちの意見を聞き、先に約束した方に行くのが、誠実だと思いました。(M)
- 友だちと遊ぶ約束をしたときは、最初に約束をした子と遊ぶことが誠実で、これからは実行したいです。(H)
- 約束を守り誠実な生き方をすると、相手も気持ちがいいと思います。(S)

正直、誠実

あまり売れない手品師が大劇場に立てるチャンス捨て、男の子と交わした約束を守ります。しかし、手品師にはそれを決心するまでに大きな葛藤が見られます。手品師の心を見つめ、自分ならどうするかを考えました。